

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分が輝き、みんなで輝く上川井の子」
 ○自らの課題向かって主体的に粘り強く取り組む子を育てます。(知)
 ○善悪を判断し、思いやりをもって、共に生きる子を育てます。(徳)
 ○心も体も健康で、自他の生命を大切にすることを育てます。(体)
 ○上川井をふるさとと思い、人や自然と関わろうとする子を育てます。(公)
 ○横浜や上川井の伝統や文化について自ら学び、社会の変化に対応できる子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

＜自分づくりに関する力＞

具体化した資質・能力

自立心 好奇心 感情語彙の豊かさ 相手の思いを受け止めて聞く力	社会生活との関わり 感じたことを言葉にする力 主体性・積極性	協同性 身近な語彙の豊かさ 内省(振り返り)の習慣
--	--------------------------------------	---------------------------------

中期取組目標

○子ども一人一人を大切に、学ぶことが楽しいと思える教育活動を実施します。
 ・1年目は、ユニバーサルな学習環境を整え、個に応じた支援を継続します。
 ・3年間を通して学びの過程を可視化し、できるようになったことや自分の学びを自覚できるようにし、子どもたちの「知りたい」「やりたい」「伝えたい」という思いを引き出す主体的な学びの実現を図ります。
 ○人との関わりの中で意欲を引き出します。
 ・3年間を通して、相手の顔が思い浮かぶ関係の中で互いの良さを認め、自分らしさを見い出せるようにしていきます。

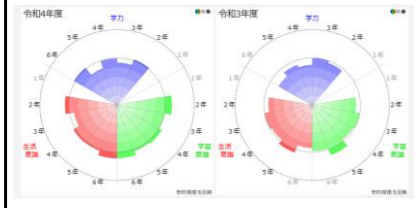
学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
読解力・学力向上	①「上小ホームワーク」と「上小チャレンジカップ」を継続し、学習の習慣化と学習意欲の向上を図る。②単元づくりの工夫と学び合いの充実を図り、児童が「知りたい・やりたい・伝えたい」と思える学習を展開していく。③読書タイムの充実を図ると共に、言語能力を高めるための継続的な取り組みを行う。
担当	学びのファシリテーター

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態
 ○横浜市学力・学習状況調査より
 ・学年によって、学習意欲や学力に大きな差が見られる。読書教育を推進しているものの、本を読むことに抵抗を感じる児童が多い。全教科の結果を通じて分かることは、「読解力」不足である。昨年度まで国語の重点研究で、「読むこと」に重点を置いて取り組んできたが、作者の意図や論の展開を読み取ること及び語彙力に課題が残る。それが、国語にとどまらず、各教科の理解の低さにもつながっているものと考えられる。
 ○与えられた課題に最後まで取り組もうとする児童が多いが、興味関心をもとに学びを深めたり、既習から学習を発展させたりする力に乏しい。主体的な学びにつなげたい。

(2) これまでの学校の取組状況
 ○上小ホームワークの継続により、家庭学習が定着し、計算技能等の基礎学力が身に付いてきた。
 ○上小ホームワークの問題をもとに、上小チャレンジカップを月に1回全校で実施することで、学習意欲の向上につながっている。
 ○読書タイム、市民読書の日の取り組み等を設定しているが、読書習慣の定着には課題が残る。



今年度の目標

児童が「知りたい・やりたい・伝えたい」と主体的に学ぶ姿を目指した学習展開の工夫をし、共に学び合うことができる学習環境づくりに取り組む。

目標を実現するための具体的行動プラン

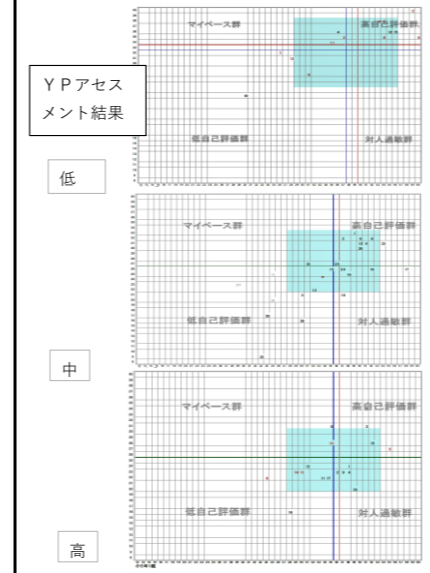
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 「上小ホームワーク」と「上小チャレンジカップ」を継続し、学習の習慣化と基礎学力の向上を図ると共に、「できた」「わかった」という経験を積み、学習意欲の向上を図る。 単元づくりの工夫と学び合いの充実を図り、児童が「知りたい・やりたい・伝えたい」と思える学習を展開していく。単元づくりは児童と教師とで行い、ゴールを明確にして学習することで、学びに向かう姿勢を育成する。 読書タイムのカリキュラムを見直すことで、児童の読書意欲の向上につながるようにする。また、司書教諭や図書ボランティアとの連携を図り、読書の楽しさを味わえるようにする。各教科との関連も確認し、読書の幅を広げていく。 スピーチや短文、国語辞典の活用等、言語能力を高めるための継続的な取り組みを年間を通じて行う。重点教科の算数においても、伝え合いを大切にしながら取り組んでいく。 さくら教室(特別支援教室)では、利用児童の実態に合わせた学習教材を用意し支援を行う。 「どの子にも分かりやすい」を心がけ、ユニバーサルな学習環境を整える。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> 「上小ホームワーク」では、課題を与えるだけでなく、自ら課題を設定して取り組むことができるよう、学年の発達段階に応じて工夫していく。 主体的な学びに繋がる単元づくりを継続し、自ら進んで学ぶ姿を大いに認め、より主体的な学びにつながるよう支援していく。また、身に付いた力を児童が自覚できるような場の設定を行う。 児童がこれまでの学びを活用できるよう、掲示物の工夫をする。 「ことばのたから箱」を活用し、話したり使ったりした言葉を確認することで、児童の語彙力の向上を共に確認し、表現力の向上を図る。 読書カリキュラムの実践を通して、学級担任が学習内容や児童の実態と照らし合わせて工夫・改善を図り、児童の読書意欲の向上につながるようにする。各教科との関連も確認し、読書の幅を広げていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①児童が主体となって計画する活動を積極的に取り入れ、自主性を高める。②豊かな人間関係の構築に向け、年間を見通した異学年交流を計画する。③日常の生活と結びつけ、振り返りを大切にした道徳の授業改善に取り組む。
担当	リレーションシップ

豊かな心に関わる本校の状況

小規模校ならではのアットホームな校風の中で、縦のつながりを大切に活動を通して、上級生としての自覚と下の学年を思いやる心が育ってきている。一方、クラス替えがないため、人間関係が固定されがちで、多面的に相手のよさをとらえることが難しい傾向がみられる。また、新しいことに挑戦する、自信をもって発言する、行動するということに抵抗を感じている児童も多い。



今年度の目標

友達や様々な立場の人と関わったり、体験したりする機会を積極的に取り入れ、自他を認め合う中で自分らしさを見出し、よりよい人間関係を育めるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

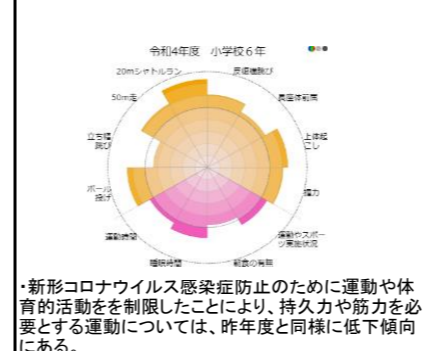
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 成長段階に応じて、宿泊体験学習や修学旅行などの行事を通して自然体験や、社会科見学など学習を通して体験など、様々な体験活動の機会を設けることで豊かな心の醸成を図る。(通年) 運動会、なかよし班遊びなどの縦割り活動で上級生が手本となる機会を多く設定し、リーダーとしての自覚を高められるようにする。 学習や行事を通してブロックや他学年との交流を取り入れ、相手意識をもつとともに自他を思いやる心を育てる。 展開後段に重点を置き、日常生活のふり返りを生かした道徳の授業づくりを行う。 あいさつ週間や日常生活のふり返りをもとに、自ら進んで挨拶ができるようにする。 YPアセスメントを、もとに、集団の課題を把握し、YPプログラムを活用してよりよい集団形成を図る。 横浜子ども会議に向け、代表委員会を通して児童が主体的に話し合えるようにする。 キャリアパスポートを使い、自己実現に向け、具体的な目標を立てる。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> なかよし班遊びや、ありがとうの会、行事における縦割り活動を通して、異学年との人間関係をより深めるとともに、上級生に対する感謝の気持ちをもち、また、上級生の自己有用感や自己肯定感を高めることにつなげていく。 違いや多様な考えを認め合い、安心して自分を表現できる授業環境をつくとともに、自尊感情や人権意識を高めていくようにする。 人権週間では体験的な活動を取り入れ、様々な立場の人と関わりながら人権についての意識を高めていく。 道徳での学びが日々の生活に生かされているかふり返りを行い、実践的な態度につなげていく。 2回目のYPアセスメントをもとに、集団の課題や変容を把握し、YPプログラムの実施を通してよりよい集団形成を図る。 キャリアパスポートをもとに振り返りを行い、自己実現の達成を実感できるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康・安全教育	①学校保健委員会のテーマに沿って、「体力づくり」について学び、健康な心と体について意識の向上を図る。②手洗いを徹底し、感染症の予防を図るとともに全校児童で縄跳びや持久走に取り組み、健康・体力の向上を図る。③児童自らが考え動き、危機管理意識を高められるような避難訓練を計画する。
担当	ウェルネス

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体にかかわる児童実態
 ・休憩時間に校庭へ向かう児童は少なくないが、よく体を動かす児童とそうでない児童との二極化がみられる。
 ・単級であるため、人間関係の変化が少ない。また変化を望む児童も少ないため、一緒に活動する仲間が限定され、活動の輪が広がりにくい。
 ・年間を通して出席状況はよく、健康的な児童が多い。
 ・昨年度の保健室利用は、年間約770人。「段差に踏く」「人や球に当たる」「踏ん張れずにつまづき」などが多く、体力の低下や不注意が懸念される。
 ・手洗いの習慣は身に付いてきたが、清潔なハンカチを所持し使用することについては課題のある児童もいる。
 ・給食は偏食があり、喫食が難しい児童が一部いる。また残量も昨年度に比べ増加傾向にある。
 (2) 体力の概要と要因の分析(小学校は全校配布の体力・運動能力調査分析チャートを活用)



今年度の目標

・持久力を高めるための運動に年間を通して取り組み、体力の向上を図る。
 ・避難訓練の内容や実施方法を工夫し、防災安全意識を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> 「体づくり運動」「機械運動」「走・跳の運動」では、指導者がその運動の特性をよく理解した上で指導にあたり、体の動かし方や使い方が実感できる授業を展開する。また、学習カードや体育読本を使用して、児童に見通しがもてるように支援し、主体的に学習にかかわる姿勢を育てる。 年間を通して、手軽に楽しんで運動量が得られる縄跳びを継続的に取り組み、体力の向上や健康増進効果を得ることで元気に過ごせるようにする。 毎週1回程度、学級ごとに、昨年度、運動集会委員が作成したビデオを参考に、持久力を高める簡易的な運動を実施する。また、学校保健委員会で「体力づくり」をテーマに各学年や学級でめあてを決め取り組み等、児童自身に効果が自覚できるようにする。 保健では、生活リズムや栄養バランスの大切さについて実生活と照らし合わせながら学習できるようにする。 休み時間の外遊びを推奨する。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> 「体づくり運動」「器械運動」「走・跳の運動」では、指導者がその運動の特性をよく理解した上で指導にあたり、体の動かし方や使い方が実感できる授業を展開する。また学習カードや体育読本を使用して、児童に見通しがもてるように支援し、主体的に学習に関わる姿勢を育てる。 年間を通して、手軽に楽しんで運動量が得られる縄跳びを継続的に取り組み、体力の向上や健康増進効果を得ることで元気に過ごせるようにする。 体力アップタイム(ペア学年ごとに隔週で縄跳び運動)の取り組みを運動集会委員会が企画・運営することで、内容と取り組みの充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、体力の向上を図る。体力向上の検証として、シャトルランを再度実施し、新体力テスト時と比較する。 学校保健委員会で「体力づくり」をテーマに、継続的な縄跳びと持久走を実施し、各学年や学級で取り組む。 児童が自ら危機管理意識を高め、在学中における地震や火災発生に備え、迅速かつ的確な防災の活動に対処するため、予告をしない避難訓練を計画・実施する。

・新型コロナウイルス感染症防止のために運動や体育的活動を制限したことにより、持久力や筋力を必要とする運動については、昨年度と同様に低下傾向にある。